

六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.96
六甲山と外国人墓地
／坂田 正史
2011年3月発行



外国人墓地 小野浜地区

第96回テーマ： 六甲山と外国人墓地

講演内容

- 兵庫開港と外国人墓地のはじまり
- ラムネのシムさんと
六甲山緑化の経緯
- 六甲山レクリエーションと
居留外国人



講師：坂田 正史さん
(プロフィール)

1952(昭27)年生まれ、57歳、鳥取県出身。昭和55年千葉大学園芸学部造園学科卒、神戸市役所入所、以来都市公園の整備と管理に従事。平成20年から、神戸市森林整備事務所勤務。

実施日：平成23年3月19日(土)
午後1時～3時40分
場 所：六甲山地域福祉センター

六甲山上の春はまだ兆し

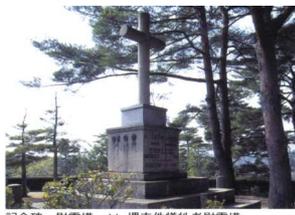
午前10時前に環境整備ボランティア8名がガイドハウスに集合しました。前月に続いて近畿自然歩道と二つ池環境学習林の樹木の新芽などの芽生えの様子を観察しました。天候は晴れで気温は8℃と温かでしたが、日陰には積雪が残り表土が凍った所もありました。樹木の花芽はまだ硬く、二つ池はシャーベット状の氷に覆われていました。1ヶ月後に、アセビの花や春植物が芽生えるのを期待しました。

綿密なガイドブックづくりを進められた

昨年の4月に、再度公園の森林整備事務所に副所長の坂田 正史さんをお訪ねして、神戸市の「出前トーク」で外国人墓地の講演をお願いしました。

1年近くも経ちましたが、「一般公開で案内するような順序でお話したい」と、沢山のスライドを駆使して臨場感のこもった説明をされました。墓の主の史実を現場まで足を運んで検証されたことに、参加者が感銘を受けました。フランス兵を殺害して切腹を命じられた土佐藩士の話は圧巻でした。また、居留地外国人が設立した会社や学校からも資料をされ、歴史秘話を紹介していただきました。

今回の講演をきっかけにして、外国人墓地のガイドブックを整備され、「出前トーク」の枠を拓かれたようです。



記念碑・慰霊塔 11. 環事件犠牲者慰霊塔



0409

躍動の明治時代にタイムトラベルした

講演の冒頭は外国人墓地の成り立ちについての説明です。日米修好通商条約の一環で、山手を好む外国人には不適な、

居留地東の低湿地に小野浜墓地が設けられました。さらに春日野墓地が設けられ、昭和36年に一里山(再度山)に移転が完了しました。墓標は2700あります。

続いて産業の近代化に貢献した居留地外国人が紹介されました。造船業のハンターさん、製紙業のウォルシュさん、神戸港を近代化したマーシャルさんとマールマンさん。生活文化に影響を与えた人として、ラムネで有名なシムさん、女性宣教師のタルカットさん、パン菓子のフロインドリーブさん、建築家のハンセルさんなど列挙にいとまがないほどです。

後半は六甲山の緑化を踏まえて、六甲山を開発したグループさん、外国人の六甲山登山を紹介されました。

外国人の創業の志に学びたい

神戸外国人墓地の存在や居留外国人の活躍ぶりを知って近代日本の歴史に親しめた。小学生にも学ばせたいし、多くの人が墓地を見学して外国人の貢献を偲びたい。坂田さんに素晴らしい「出前トーク」をしていただきました。神戸市のこのような施策にも深謝します。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 古本美千子さん

以前から外国人墓地の所在は知っていたが、神戸に住み近代社会や産業の発展に功績のあった人々が埋葬されているのを学んだ。アメリカ、フランス、イギリス、ロシアの人たちが葬られている。我々のなじみのモロゾフ、ラムネ、薬、石鹼、パン等を広め、関西学院、三菱製紙等他、学問や産業の礎を築いた人のお墓など興味をおぼえた。

そんな中、無縁墓が多いと知り複雑な思いがした。公開日時にそって偉業をしのびながら墓参りたい。



【助成金をいただいている機関】

セブンイレブン記念財団、大阪コミュニティファンド(東洋ゴムグループ環境保護基金)、子どもゆめ基金、コベルコ自然環境保全基金、コープこうべ環境保護基金

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会



第96回テーマ：六甲山の外国人墓地



第96回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00~13:20
2. 講演：13:20~14:15
3. 休憩：14:15~14:30
4. 質疑応答：14:30~15:40

講演

- 兵庫開港と外国人墓地のはじまり
- ラムネのシムさんと六甲山緑化の経緯
- 六甲山レクリエーションと居留外国人



談笑する参加者

講演の挨拶（坂田 正史さん）

神戸市・森林整備事務所で市有林やハイキング道の維持管理、外国人墓地の管理などの仕事をしています。



坂田さん

居留外国人が神戸の近代化に果たした功績を再認識していただくため、市民にもあまり知られていない外国人墓地を紹介します。

講演内容

1. 兵庫開港と外国人墓地のはじまり

■外国人墓地は再度公園にある

外国人墓地には幕末維新後、神戸に来て産業近代化や文化・教育の発展に尽くした人々が眠っている。今は再度公園の一角にあり、面積は14ha、埋葬国61か国、墓標2700。数はイギリス、アメリカ、ドイツ、ロシアの順に多い。

■幕末の国際条約で設置された

1858年の日米修好通商条約で兵庫開港と居留地、墓地の設置が決まった。幕府は外国人隔離の狙いから、港を兵庫津から遠い神戸村とし、1868年（明治元年）1月1日に開港した。開港前年、安政の五ヶ国条約で外国人居留地が定められたが整備が間に合わず、生田川-宇治川間の山麓から海までの地に居住を許した。北野、山本通りに外国人が住みはじめた由縁である。



居留地区域図・明治5年 神戸市立博物館蔵

開港式典のため神戸沖に集結していた米英の軍人4名が死亡し、約束通り山手に埋葬する要求があったが間に合わず、居留地東の低湿地である小野浜に墓地を設定し埋葬した。

■都市化により墓地を山手に移設した

明治32年、居留地が日本に返還され、墓地は神戸市管理になった。小野浜墓地が満杯で、同年、春日野墓地を作った。ここは大阪湾を見下ろす高

台にあり、ようやく外国人が望む墓地ができた。

人口急増で墓地が市街地に囲まれ、外国人墓地も一里山（再度公園）に移転統合することになった。昭和12年着工、水害や太平洋戦争を越え、昭和36年に春日野墓地から移転完了した。



再度公園 外国人墓地

2. ラムネのシムさんと六甲山緑化の経緯

神戸の産業や文化はシムさんを始めとする居留地外国人の影響を受けて発展し、六甲山開発や緑化につながる。外国人墓地に眠る方々を紹介する。

■居留地外国人が産業の近代化に寄与した

ハンターさん：1865年に来日した英国人で、キルビー商会から独立して造船業で成功した。大阪安治川河口で大阪鉄工所を始め、後に日立造船になった。近代造船の先駆者といわれる。

マーシャルさんとマールマンさん：英国人マーシャルさんは明治4年、兵庫県知事に乞われて初代神戸港長になった。六甲山が季節風を防ぎ、湾への大きな川もないことから神戸港は世界有数の港になると予言した。後任の英国人マールマンさんは明治9年以来、港長24年で港や船舶の規則を設け世界に通用する港に仕上げ、外国人で初めて叙勲された。2人は神戸港近代化の父である。

神戸で初めてパルプ工場を作ったウオルシュさん、炭酸水の工場を起こしたウイルキンソンさんなどの実業家も神戸の産業勃興に寄与した。

■神戸の生活文化も外国人の影響を受けた

シムさん：明治3年に英国から来て、香水、薬品、石鹼などの輸入販売をした。

居留地の世話役を務めた。居留地が「東洋の理想郷」といわれるまで成長したのはシムさんのおかげである。明治18年には神戸で最初にラムネを販売した。ラムネはコレラに効くとされ繁盛したという。会社が居留地18番だったので18番ラムネとよばれた。



シムさんの墓

タルカットさん：米国からの初めての女性宣教師で、日清戦争の傷病兵を敵味方なく看護し、日本のナイチンゲールといわれた。板垣退助との対談

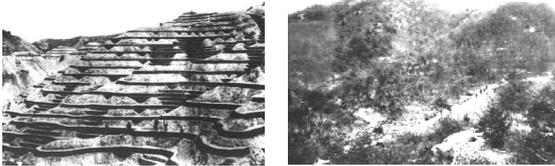
で、めかけを困っている板垣に対しすごい剣幕で女性蔑視と意見し、さすがの板垣も目を伏せた。慈愛に溢れつつ骨のある女性だった。

明治8年、諏訪山の麓に「神戸ホーム」を作った。これが後の神戸女学院につながる。毎年5月に神戸女学院中等部の女生徒がお墓参りに来る。
ハンセルさん：明治21年に来日、神戸居留地でハンター邸、シュウエーケ邸等を作った。出征した息子の思い出が残る神戸に住むのに耐えられず、大正8年に離日。晩年はモンテカルロに住み、山荘に「yama no kottege」と命名し神戸を偲んだ。そのyamaは六甲山だったに違いない。

居留地外国人は、海が見え六甲山を背にした神戸の街を愛し、神戸の文化に影響を与えた。

■伝染病が契機となった六甲山の緑化

明治以前、六甲山は禿山だった。神戸では井戸水を使っていたので衛生環境が悪く、明治10年代は毎年夏に、コレラ、チフスがはやった。神戸市では水道施設のため布引ダムを作った。大雨で土砂がダムに流れこみ、水源涵養、土砂流出防止の目的で明治35年に植林を始めた。土を保持するために等高線に沿って人力で石積みをした。石垣は再度山に今も残っている。



六甲山の緑化事業(左:明治36年/右:大正2年)

こうして、六甲山は禿山から神戸を特徴づける緑の山となった。

3. 六甲山レクリエーションと居留外国人

■外国人の六甲山登山が毎日登山を生んだ

外国人が六甲山に登りはじめた。また、北野や山本通りに住んでいた外国人が出勤前に布引や再度山に登った。それを日本人がまねて今日の「毎日登山」ができた。当時、再度山には善助茶屋があり、朝メニューに紅茶、トーストが出て、



左:外国人の山歩き/右:毎日登山の朝のくつろぎ

そのハイカラさにひかれて登る人も増えた。

明治以前の日本人には登山の習慣はなかったが、外国人の影響をうけて明治末から昭和初期にかけて多くの登山団体がうまれた。かくて、六甲山は近代登山のメッカとされるようになった。

■グループさんの六甲山避暑地開発

奥さんから狩猟は殺生と言われ、悔いて市民のためにと六甲山を開いた。明治28年、三国池に山荘や登山道を建設し、開発の魁となった。

明治34年、六甲山頂にゴルフ場を作った。翌々年には初のゴルフクラブ・神戸ゴルフクラブを作った。アップダウンが激しくキャディが重要だった。キャディは唐櫃や住吉の子供たちが務め、その中から日本初のプロゴルファーがうまれた。

質疑応答

団体を除いて来訪者の数は? : お盆、お彼岸、年末は多いが、それでも1日20組くらい

見学するには? : 4~11月の第4日曜が一般公開。毎月10日までに申し込んでほしい。

まとめ(坂田さん)

神戸市はデザイン都市として、個性や文化を大切にしたい都市づくりをしている。そのために、神戸の個性形成に大きな役割を果たした六甲山の歴史、神戸の文化の起源といわれる居留地外国人の歴史を再認識して、街づくりに生かす必要がある。このセミナーがお役にたれてほしい。外国人墓地をぜひ目でみていただきたい。

事務局から

外国人墓地に眠っている彼らがなぜ神戸に根を下ろしたか、その秘密が六甲山と海を擁する神戸の風景だったことが分かった。一度ツアーを組んで外国人墓地を訪れてみたい。

◆参考・配布資料など

- ・パンフレット : 「神戸市立外国人墓地」、「神戸市立外国人墓地公開のお知らせ」
- ・資料 : 外国人墓地年表
- ・レジュメ : 「六甲山と外国人墓地」

坂田 正史 : さかた まさし

神戸市建設局 公園砂防部 森林整備事務所副所長
〒651-1102

神戸市灘区北区山田町下谷上字中一里山4-1

電話 : 078-371-5937

e-mail : masashi_sakata@office.city.kobe.lg.jp

◆参加者の声

- ・大変興味深く拝聴した。ぜひ、見学したい。
- ・こんな解説(パンフなど)付きであれば、内容深い外国人墓地見学会(一般公開イベント)になると思う。
- ・神戸の開発からの歴史、旧居留地等ずいぶん詳しくお調べになっていることに興味しました。
- ・お仕事を越えた研究をされたことと思います。

◆参加者 : 17名(50音順・敬称略)

泉 美代子 岡 敏明 岡井 敏博 岡本 正美
尾崎 尚子 小室 哲郎 坂田 正史 田邊 征三
寺垣 耕平 堂馬 英二 古本美千子 前田 秀二
松井 光利 三谷 裕善 村上 定広 明角 正男
山田 良雄